

第六十九回 帝國議院 戰時補償特別措置法案(政府提出)外五件委員會議錄(速記)第一回

付託議案

財產稅法案(政府提出)

財產稅等收入金特別會計法案(政府提出)

金融機關再建整備法案(政府提出)

企業整備資金措置法を廢止する等の法律案(政府提出)

戰時補償特別措置法案(政府提出)

金融機關再建整備法案(政府提出)

特別和議法案(政府提出)

大藏省預金部等損失特別處理法案

(政府提出)

厚生年金保險法及び船員保險法特例

案(政府提出)

企業再建整備法案(政府提出)

(土曜日)議長ノ指名ヲ次ノ通り選定サ

本委員ハ昭和二十一年九月二十八日

レタ

九月三十日(月曜日)午前十時四十五分

委員長理事互選ノ爲次ノ委員ガ召集シタ

石原圓吉君 江藤夏雄君 大塚甚之助君

近藤鶴代君 坂本實君 松永佛骨君

田中重彌君 高橋英吉君 壱多橋治郎君

平岡良藏君 廣川弘禪君 九鬼紋十郎君

森本多市郎君 森曉君 小坂善太郎君

近藤鶴代君 坂本實君 松永佛骨君

石原圓吉君 江藤夏雄君 大塚甚之助君

大内一郎君 大塚甚之助君

花月純誠君 菊池長右エ門君

森近藤鶴代君 坂本實君 松永佛骨君

田中重彌君 高橋英吉君 壱多橋治郎君

森近藤鶴代君 坂本實君 松永佛骨君

平岡良藏君 廣川弘禪君 九鬼紋十郎君

本多市郎君 森曉君 小坂善太郎君

森近藤鶴代君 坂本實君 松永佛骨君

大内一郎君 大塚甚之助君

武藤嘉一君 上田清次郎君

〔年長者石原圓吉君投票管理者トナリ〕

昭和二十一年九月三十日(月曜日)午前

出席國務大臣

司法院大臣 木村篤太郎君
商工大臣 星島二郎君

水谷長三郎君

委員長 本多市郎君

北村德太郎君

大藏大臣 石橋湛山君

國務大臣 暈桂之助君

東岩男君

○石原投票管理者 ソレデハ本多市郎

君ヲ委員長ニ推薦致シマス、御異議ナ

イモント認メマス、仍テ本多市郎君ハ

委員長ニ御當選ニナリミシタ、委員長

本多市郎君ニ此ノ席ヲ譲リマス

〔拍手〕

〔本多市郎君委員長席ニ著ク〕

○本多市郎君只今不肖私が本委員會

ノ委員長ニ御決定ヲ戴イタノデアリマ

スルガ、本委員會ニ付託セレテ居リマ

スル所ノ諸法案ハ御承知ノ如ク後日

本ノ經濟的基盤ヲ再建スル所ノ重要法

案デアリマシテ、而モ會期ノ關係ハ短

時日ノ間ニ審議ヲ盡サケレバナラヌ

コトニナツテ居ルノデアリマス、此ノ

重大ナル委員會ノ委員長トシテ果シテ

私ガ其ノ職責ヲ全ウシ得ルヤ否ヤ憂慮

ナキヲ得ナインデアリマスガ、全力ヲ

盡シマシテ委員各位ノ御支援ト御協力

ニ依ツテ大過ナキヨ期シタ伊思フノ

デゴイマス、ドウカ宜シク御願ヒ致

シマス(拍手)引續イテ理事ノ互選ヲ行

ヒマス

○石原投票管理者 先例ニ依リマシテ

私ガ年長ノ故ヲ以テ投票管理者トナ

リ、是ヨリ委員長ノ互選ヲ行ヒマス

マス、御賛成ヲ願ヒマス

○高橋(英)委員 投票ヲ用ヒズ委員長

見ニ御異議ハアリマセヌカ

ニ本多市郎君ヲ御推薦致シタイト思ヒ

マス、御賛成ヲ願ヒマス

○石原投票管理者 高橋英吉君ノ御意

ヲ理事ニ指名致シマス

〔異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○石原投票管理者 高橋英吉君ノ御意

ヲ理事ニ指名致シマス

〔異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

就キマシテハ今後ノ審議方針ヲ協議スル爲メ理事会ヲ開催致シタイト思ヒ
マスノデ、暫ク休憩致シマス

午前十時四十九分休憩

午前十一時六分開議

○本多委員長 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、本委員會ニ現在付託セラレ

テ居リマスル法案ハ、戰時補償特別措置法案、金融機關再建整備法案、特別和議法案、大藏省預金部等損失特別處理法案、厚生年金保險法及び船員保險

法特例案、企業再建整備法案、金融機關再建整備法案、特別和議法案、大藏省預金部等損失特別處理法案、厚生年金保險法及び船員保險

直シトハ正ニ焦眉ノ急ヲ要スル問題ト存セラレマス、是ガ爲ニハ主トシテ財産税ノ特ニ大幅ナ徵收ニ依ル方法ト、ヘラレルノデゴザイマスガ、政府ハ組閣以來慎重検討ノ結果、内外各般ノ事情ヲ考慮致シマシテ、補償ノ打切りヲ

断行スルコトニ致シマシタコトハ、義理致シマシテ、補償ノ打切りヲ

ニ本會議ニ於テ説明申上ゲマシタ通りデゴザイマス、此ノ補償打切りヲ課税ノ方法ニ依ツテ行ハント致シマスノ

ガ、戰時補償特別措置法案ノ骨子ニアリマス、而シテ一般ノ企業ハ之ニ依ツテ直接ニ影響ヲ蒙ムルノデアリマス

ガ、是ニ依ル企業ノ損失ヲ適正ニ處理致シマシテ、擬制資本ノ切捨ヲ行

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

次ニ金融機關ハ補償打切りニ依リマントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

次ニ金融機關ハ補償打切りニ依リマントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

ヒ、之ヲ健全ナル企業トシテ再建セシメントスルノガ、企業再建整備法案ノ根本ノ趣旨アリマス

シテ企業ノ蒙ムル巨額ノ損失ニ對應致シマシテ、其ノ融通致シマシタ資金ヤ

ラザル損失ヲ生ズルコトガ豫想セラレルノアリマス、之ヲ又適正ニ處理致

マシテ、之ヲ放置シテ置キマスルト、國民生活ニ多大ノ不安ヲ呼び起シ、且ツ有益ナ公益法人ノ事業ヲ阻害スルコトトモ相成リマス、是等ヲ除外シマシス、而シテ問題トナリマス請求權ハ、

國民生活ニ多大ノ不安ヲ呼び起シ、且ツ有益ナ公益法人ノ事業ヲ阻害スルコトトモ相成リマス、是等ヲ除外シマシス、而シテ問題トナリマス請求權ハ、

依ルモノニアリマシテ、要スルニ戰爭ニ起因シテ發生致シマシタ請求權ハ、原則トシテ總て之ヲ打切りト云フ方針ヲ

輔助制度ニ基ノ扶助料其ノ他ノ請求權ガ

其ノ三デアリマス、是等ヲ除外シマシス、而シテ問題トナリマス請求權ハ、

國債等ノ問題ハ本來補償打

切トハ全然別箇ノ問題デアリマスルカ

ラ、其ノ趣旨ヲ明確ニ致シタニ過ギマ

ニ見送ベマシタ定義ノ中デ、支拂ガ濟

ンデ居ルト申シマシタガ、是ハ現金ニ

助料等ヲ除キマシタノハ、全ク人道上

ノ見地カラ出デタモノアリマス、右

ニ申述べマシタ定義ノ中デ、支拂ガ濟

ス、又戰爭死亡傷害保險金、軍事扶

助料等ヲ除キマシタノハ、全ク人道上

ノ見地カラ出デタモノアリマス、右

ニ申述べマシタ定義ノ中デ、支拂ガ濟

ス、又戰爭死亡傷害保險金、軍事扶

助料等ヲ除キマシタノハ、全ク人道上

ノ見地カラ出デタモノアリマス、右

ニ申述べマシタ定義ノ中デ、支拂ガ濟

ス、又戰爭死亡傷害保險金、軍事扶

助料等ヲ除キマシタノハ、全ク人道上

ノ見地カラ出デタモノアリマス、右

ニ申述べマシタ定義ノ中デ、支拂ガ濟

ス、又戰爭死亡傷害保險金、軍事扶

助料等ヲ除キマシタノハ、全ク人道上

ノ見地カラ出デタモノアリマス、右

はト趣旨ヲ同ジクスル補償金ノ請求權ガ其ノ二デアリマス、軍事扶助等ノ救

マシタ、甚シク休憩致シマス

午前十時四十九分休憩

午前十一時六分開議

○本多委員長 休憩前ニ引續キ會議ヲ

開キマス、本委員會ニ現在付託セラレ

テ居リマスル法案ハ、戰時補償特別措

置法案、金融機關再建整備法案、特別

和議法案、大藏省預金部等損失特別處

理法案、厚生年金保險法及び船員保險

法特例案、企業再建整備法案、金融機

關再建整備法案、特別和議法案、大藏

省預金部等損失特別處理法案、厚生年

金保險法及び船員保險法特例案、企

業再建整備法案、金融機關再建整備

法案、特別和議法案、大藏省預金部等

損失特別處理法案、厚生年金保險法及

び船員保險法特例案、企業再建整備

法案、金融機關再建整備法案、特別和

議法案、大藏省預金部等損失特別處

理法案、厚生年金保險法及び船員保險

法特例案、企業再建整備法案、金融機

關再建整備法案、特別和議法案、大藏

省預金部等損失特別處理法案、厚生年

金保險法及び船員保險法特例案、企

業再建整備法案、金融機關再建整備

度品等ノ代金、又中小商工業者ノ納入シタ用

テハ、軍服裁縫ノ加工賃ノ如キモノニ
マデ此ノ補償ノ打切りハ及ブノデアリ
マシテ、又徵用サレタ漁船ノ沈沒ニ對
スル補償金、企業整備ノ補償金、強制
疎開ノ補償金ノ如キモノモ、一律ニ之
ニ包含サレルコトニ相成リマス

以上ノヤウナ次第デ、補償打切りノ
影響ハ國民ノ各層ニ亘リ相當廣汎ニ及
ブノデアリマスルガ、政府ハ中小產者、
或ハ中小商工業者等ニ對スル影響ヲ出
來ル限り緩和致スコトヲ考ヘテ、控除額
金額ニ付テ特ニ考慮ヲ拂ツタ次第デアリ
リマス、控除金額ト致シマシテハ、一
般ノ補償金ヤ、物資ノ納入代金等ニ付
キマシテハ、請求權一口毎ニ一萬圓、
戰爭保險金等ニ付キマシテハ、個人ハ請
求權者一人每ニ五萬圓、法人ハ請求權
一口毎ニ一萬圓デアリマスガ、總て是
等ヲ通ジテ控除額ハ一人又ハ一法人
補償金ヤ、戰爭保險金ノ控除ガ五萬圓
ニ滿タナイ場合ニ限リ、其ノ控除金額
整備ノ補償金ニ付キマシテハ、一般ノアリ
マス、尙ホ戰爭補償請求權ニハ控除ガ五萬圓
者、茲ニ中小商工業者ニ對スル影響ハ
相當緩和サレルモノト信ズルノデアリ
類ノ請求權ニ對シマシテハ昭和二十年
ニ於テ發生シタ請求權、政府ノ交付ス
ル各種ノ補助金ノ中戰爭ニ關係ノアル
モノノ請求權ナドデアリマス、其ノ
主ナルモノヲ擧ゲテ見マスルト、國外
八月十六日以後ニ支拂ハレタモノニア
リマシテモ、本法施行前ニ既ニ支拂済
ミノモノニ付キマシテハ課稅ニ依ツメ
之ヲ取戻サナイコトニ致シテ居リマス

ス、尙ホ地方公共團體ニハ本稅ノ課稅
尙ホ又慈善團體、教育團體、醫療團體、
其ノ他專ラ公益ヲ目的トスル團體ノ持
ツテ居リマスル戦爭保險金請求權ニ付
キマシテハ、戰時補償特別稅審査委員
會ニ諸問致シマシテ、其ノ課稅ヲバ輕
減又ハ免除スルコトガ出來ルヤアニ相
成ツテ居リマス、尙ホ戰時補償請求權
ノ中ニハ、金錢以外ノ給付ヲ其ノ目的
トスルモノモアリマスガ、之ニ付キマシ
テハ戰時補償特別措置法施行ノ日ニ法
律上其ノ權利ヲ消滅セシムル方法デ之
ヲ打切ルコトニ致シマシタ、最後ニ戰
時補償請求權ニ對スル課稅ト同時ニ此
ノ際打切ルベキモノモアルノデアリマ
ス、即チ銀行等資金運用令ニ基ク命令
融資ニ依リマスル金融關係ノ損失ノ補
償等竝ニ會社ノ社債等ノ元利補償デアリ
マスガ、之ニ付キマシテハ未だ請求
權ガ具體化シテ居リマセカラ課稅ノ
對象ニハナリマセヌガ、特別措置法ノ
規定ニ依リマシテ、其ノ義務ヲバ消滅
セシムルコトニ致シマシタ次第アリマ
ス、但シ資金融通等ノ損失補償ニ付
キマシテモ、社債ノ元利補償ニ付キマ
シテモ、平和的ノ目的ノ爲ニアリマス
ルモノニ付キマシテハ、之ヲ命令ノ規
定ニ依リマシテ除外スルコトニ致シテ
居リマス

○石橋國務大臣 私カラ戰時補償特別措置法案、金融機關再建整備法案及ビ
大藏省預金部等損失特別處理法案ノ三
件ニ付キマシテ若干ノ御説明ヲ上ゲ
マス、先づ戰時補償特別措置法案デゴ
ザイマスガ、此ノ法案提出ノ理由ニ付キ
マシテハ、只今膳國務大臣カラ御説明
ガアリマシタノデ詳細ハ略シマス、要
スルニ終戰後ノ事態ニ對應致シマシ
テ、我ガ國財政經濟ノ再建ヲ圖ル爲メ
此ノ處置ヲ執ルコトガ、即チ、戰時補償
ヲ打切ルコトが必要アルコトニ出ヅ
ルノデアリマシテ、政府ト致シマシテ
ハ累次申上ゲマス通り、一旦約束致シ
マシテモノヲ打切ル等ハ甚ダ忍ビ難イ
モノガアリマスルガ、諸般ノ情勢ニ鑑
ミマシテ、大局的見地ニ立ツテ此ノ際
此ノ特別ノ措置ヲ斷行スル決心ヲ致シ
タ次第アリマス

○次ニ本法案ノ内容ニ付キ其ノ主ナル
點ヲ申上ゲマス、先づ本法案ノ内容ト
スル所ハ、大別シテ次ノ三項目ニ分ケ
ラレル次第アリマス、即チ第一ハ戰
時補償請求權、即チ政府又ハ特定機關
ニ對スル請求權中一定範圍ノモノニア
リマシテ、金錢ノ給付ヲ目的ト致スモ
ノハ百分ノ百ノ税率ヲ以テ、課稅ヲ致
シマシテ、之ヲ原則シテ消滅致シマ
ス、又金錢ノ給付以外ノ給付ヲ目的ト
致スモノニ付キマシテハ、本法施行ノ
際ニ消滅サセル次第アリマス

失ニ對スル政府ノ補償、是ハ本法施行後ハ原則トシテ之ヲ行ハナイコト相成ル譯デアリマス
第三ハ政府ガ會社等ノ爲ニナシタ補償、是ハ本法施行ノ日ニ於テ原則トシテ其ノ效力ヲ失フ次第アリマス、以テノ如ク本法案ハ戰時補償ニ對シ課稅等ノ方法ニ依リマシテ之ヲ打切ルコトヲ内容トスルモノデアリマスガ、其ノ規定ノ主ナル部分ハ第一ノ戰時補償特別稅ニ關ヘルモノデアリマスカラ、以下主トシテ戰時補償特別稅ニ關シテ申上ゲヨウト思ヒマス

只今申上ガマシタヤウニ、本法ニ依リ戰時補償特別稅ヲ設ケマシテ戰時補償請求權ヲ原則トシテ課稅ニ依リ消滅セシムルノデアリマスガ、茲ニ所謂戰時補償請求權ハ既ニ只今陸國務大臣カラ詳細ナル説明ガアリマシタヤウニ、政府又ハ特定機關、即チ國ノ施策ニ協力スル法人ト、例へバ產業政策營團、國民更生金庫、損害保險會社等ニ對スル請求權デアリマシテ、其ノ辨濟期日が昭和二十年八月十五日以前ノモノデ同日以前ニ決濟ガナカツタモノ、及ビ同日以前ニ企業整備資金措置法第五條ニ規定スル方法等ニ依リマシテ決濟ガアツタモノ、又ハ辨濟期日が昭和二十年八月十五日後ノモノデ同日以前ニ生ジタ損害又ハ同日以前ニナサレタ給付等ニ依ルモノデアリマス、但シ政府又ハ特定機關ノ通常ノ業務ニ關シテ生ジタ請求權ハ除外サレルノデアリマス
次ニ課稅ノ方法デアリマスガ、先づ納稅義務者ハ本法施行ノ際現ニ戰時補償請求權ヲ有シ、又ハ此ノ法律施行以前ニ戰時補償請求權ニ付テ決済ヲ受ケタモノデアリマス、此ノ法律ノ施行以前三相續ノ開始ガアツタ場合ニハ、戰

時補償請求權ニ付テ被相續人ノ受ケタ
決済ハ相續人ガ之ヲ受ケタモノト看做
シテ此ノ法律ヲ適用スルコト致シテ
居リマス、尙ホ法人ガ合併ニ依ツテ消
滅シタ場合ニモ同様ノ趣旨ノ規定ヲ設
ケテゴザイマス、課税價格ハ本法施行
ノ際現ニ有スル戰時補償請求權ニ付
又ハ本法施行前ニ戰時補償請求權ニ付
テ決済ノアツタ金額デアリマス、控除
ニ付キマシテハ是レ亦只今勝國務大臣
カラ説明ガアリマシタガ、所謂獨義ノ
軍需補償並ニ之ニ類スル請求權ニ付テ
ハ個人法人共ニ一請求權每ニ二萬圓、
一萬圓ヲ課税價格カラ控除致シマス、
但シ是等ヲ通じ控除總額ハ一個人又ハ
一法人ニ付テ十萬圓ヲ超エ得ナイト云
フコトニナツテ居リマス、又企業整備
關係ノ請求權ニ付キマシテハ、個人法
人共狹義ノ軍需補償、戰爭保險金等ノ
請求權ノ控除ガ五萬圓未滿デアル場合
ニ限りマシテ、ソレ等ノ控除額ト合算
シテ五萬圓ガ課税價格カラ控除サレル
コトニナツテ居リマス、尙ホ控除ハ納
稅義務者ガ申告期限内ニ申告シタ場合
ニ限ツテ之ヲ行フコトニナツテ居リマ
スガ、課税價格ガ控除金額以下デアル
場合デアツツ本法施行前ニ現金拂ヲ受
ケタモノニ付テハ、申告ガナイ場合
ニモ控除ヲ受ケ得ルコト致シマシタ
此ノ控除ニ關聯シテ一言致シマス
ガ、戰時補償特別稅ノ課税ノ對象トナ
ル特殊預金等ノ中、只今述ベシタ所
ニ依リ控除セラレマシタ部分ハ之ヲ第
一封鎖預金トスル方針デアリマシテ、
是ガ爲メ金融緊急措置令ニ若干ノ改正
ヲナス豫定デアリマス、又現ニ存スル

政府特殊借入金ノ中、戰時補償特別稅ヲ
納付ノ後尙ホ殘存スルモノニ付キマシ
テハ、之ヲ登錄國債ニ致スノデアリマ
ス、尙ホ地方公共團體ニハ本稅ハ課セ
ラレナイコトニナツチ居リ、又公營法
人等ニ對シマシテハ、別ニ設置ヲ豫定サ
レテ居リマス戰時補償特別稅審査委員
會ノ諸間ノ經手、戰爭保險ニ基ク請求
權ニ對スル課稅ヲ輕減又ハ免除スルコ
トガ出來ルコトニナツチ居リマス、本
稅ノ稅率ハ百分ノ百アリマス
次ニ納稅義務者ハ原則トシテ一定ノ
申告期限内ニ課稅價格其ノ他必要ナ事
項ヲ政府ニ對シテ申告スルコトニナツ
テ居リマスガ、納稅義務者ガ本法施行
ノ際戰時補償請求權ニ對スル決済トシ
テ設定サレタ特殊預金等ヲ有シテ居ル
者デアリマス時ハ、其ノ金融機關等ヲ
經由シテソレハ申告ヲスルコトニ致
シテアリマス
次ニ納付ニ付テ申上ゲマス、納稅義
務者ハ原則トシテ申告期限内ニ政府ニ
對シ稅金ヲ納付スルコトニナツチ居リ
マスガ、併シ申告ヲ金融機關ヲ通シテ
ナスコトニナツチ居リマス場合ニ於キ
マシテハ、金融機關ヲ經由シテ稅金ヲ
納付スルノデアリマス、金融機關ハ徵
收義務者トシテ其ノ稅金ヲ徵收シ、申
告期限ノ屬スル月ノ翌月末日マニニ之
ヲ政府ニ納付スルノデアリマス、尙ホ
納付スベキ稅額ハ後ニ述べマス代位納
付義務者ガ納付シタ稅額ヲ控除シタ金
額トナツチ居リマス
尙ホ本法施行ノ際現ニ納稅義務者ノ
有スル戰時補償請求權ハ申告ト同時ニ

又申告ノナイ場合ニハ申告期限ニ於テ消滅スルコトニナツテ居リ、其ノ消滅ト同時ニ本税ノ納付ガアツタモノト看做シテ居ルノデアリマス、更ニ納稅義務者ガ本法施行ノ際戰時補償請求權ノ決済トシテ設定セラレタ政府特殊借入金又ハ特殊預金等ヲ有シテ居ル時ハ、先ツ其ノ政府特殊借入金又ハ特殊預金等ニ依ツテ本税ヲ納付致サナケレバナラナイノデアリマシテ、此ノ場合ソレ等ノ政府特殊借入金又ハ特殊預金等ニ擔保權ヲ有シテ居ル者ガアリマシテモ、其ノ納付ヲ拒ミ得ズ、又強制執行手續等ノ手續ガ進行中アリル場合ニ於キマシテモ、徵收又ハ納付ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲラレナイコトニ致シテ居リマス、納稅義務者ガ申告シナカツタ場合ニハ、戰時補償請求權ノ決済トシテ設定セラレタ政府特殊借入金ニ付テハ、申告期限ノ翌日ニ政府ガソレヲ以テ本税ヲ徵收スルノデアリマスガ、特殊預金等ニ付テハ、其ノ預入先ノ金融機關ハ申告期限ノ翌日ニ其ノ特殊預金等ヲ本税トシテ徵收シ、之ヲ政府ニ納付スルコトニナツテ居リマス

分ノ十ノ割合デ加算稅ガ徵收サレルノ
デアリマス
次ニ課稅價格ノ更正又ハ決定デアリ
マスガ、申告ガナイ時、又ハ申告ヲ不
相當デアルト認メタ時ハ、政府ハ課稅
價格ヲ決定又ハ更正致シテ、不足稅金
又ハ決定稅金ヲ徵收スルコトトシテ居
リマス
次ニ納稅義務者ハ政府ノ課稅價格ノ
更正又ハ決定ニ對シ異議ガアル時ハ審
査請求ヲ致シ、又其ノ審査ノ決定ニ對
シ不服ガアル者ハ訴願ヲナシ、又ハ行
政裁判所ニ出訴スルコトガ出來ルコト
ニ致シテ居リマス
次ニ本稅ニハ代位納付ノ規定ガ設ケ
テアリマスガ、是ハ納稅義務者ニ代位
シテ本稅納付ノ義務ヲ認メタモノニア
リマス、即チ納稅義務者以外ノ者
デ本法施行ノ際戰時補償請求權ノ
決濟トシテ設定サレタ特殊預金等ヲ
有シテ居ル者ハ、其ノ特殊預金等ノ
金額ヲ限度トシテ納稅義務者ニ代位
シテ本稅ヲ納付シナケレバナラナイ
ノデアリマス、又納稅義務者ガ金融
融機關ニ對スル債務ヲ辯済スル爲ニ戰
時補償請求權ニ付テ現金拂ヲ受ケ、又
ハ特殊預金等ノ拂戻ヲ受ケ、之ニ依ツ
テ債務ヲ決済シタ場合等ニ於キマシテ
ハ、決済ヲ受ケタ金融機關ハ其ノ決済
ヲ受ケタ金額ノ限度ニ於テ代位納付シ
ナケレバナラナイコトニ致シマシタ、
代位納付義務者ノ申告、納付、課稅價
格ノ更正若シクハ決定、審査、訴願
又ハ行政訴訟ニ付テハ、納稅義務者ノ
場合ニ準ジテ規定ヲ設ケタノデゴザイ
マス、此ノ代位納付義務者ガ特殊預金
等ヲ有償テ取得シタモノデアル場合ニ
於キマシテハ、其ノ納付ニ充テタ特殊

預金等ノ取得ニ要シタ對價ニ相當ヘル
金額ニ付テ納稅義務者等ニ對シテ求償
權ヲ持ツコトナツテ居リマス、又納稅
義務者ガ有償デ取得シタ戰時補償請
求權ニ付テ課稅ヲ受ケタ時モ同様ニ
ノ譲リ渡人ニ對シ求償權ヲ持ツコトト
サレテ居ルノデアリマス、尙ホ政府ハ
特定機關ニ對シ調書提出ヲ命ジ得ル
トトシ、又收稅官吏ハ納稅義務者等ニ
質問ヲナシ、又ハ其ノ戰時補償請求權
ニ關スル帳簿註類其ノ他ノ物件ヲ検査
スルコトが出來ルコト致シテ居リマス
ス、次ニ所征稅法人稅、相續稅等ノ諸
稅トノ調整ニ付キマシテハ、ソレム
特別ニ規定ヲ設ケマシテ、本稅ニ依ル
負擔ノ過重ヲ極力回避致シタ次第アリ
マス、尙ホ政府又ハ特定機關ニ對シ
テ土地又ハ建物等ヲ讓渡シタ場合等ニ
於キマシテ、其ノ對價ノ請求權ニ付テ
本稅ヲ課セラレマシタ時ハ、政府又ハ
特定機關ハ原則トシテソレ等ノ物ヲ舊
所有者ニ譲渡シケレバナラナイコト
ト致シマシテ、本稅ニ依リ生ズル無理
ヲ出來ルダケ最低限度ニ止メルコトニ
致シタノデアリマス

次ニ罰則ニ付キマシテハ、本稅創設
ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、詐偽、其ノ他ノ
不正ノ行爲ニ依ル逃脫等ニ關シマシテ
ハ、嚴重ニ之ヲ處罰スルコトト致シテ
居リマス、尙ホ皇室ノ財產ニ係ル戰時
補償請求權ノ特別措置ニ關シマシテ
ハ、皇室令ニ規定ヲスルコトニナツテ
居リマス

最後ニ本稅ノ對象トナル戰時補償請
求權ノ總額ハ約八百九億圓デアリマシ
テ、控除額約百四十億圓ヲ差引致シマ
シテ、總額約六百六十九億圓ガ課稅サ
ルコトニナツテ居リマス

以上御説明致シマシタノガ、戰時補

次ニ金融機關ノ再建整備法案ニ付キ
申上ダマス、戰時補償等ノ特別處理ヲ
斷行致シ、マスコトハ、戰後經濟ノ安定
ヲ圖リ、新日本經濟建設ニ相應シ平
和產業ヲ再建シ、更ニ進ンデ其ノ健全
ナル發達ヲ庶幾致シマスル爲、我ガ國
經濟界ノ現狀ニ照ラシ、最モ緊要ニシ
テ且ツ其ノ要請ニ應フル所以ト考ヘル
ノデアリマス、併シナガラ是方實施ニ
當リマシテハ、何分ニモ我ガ國產業界
竝ニ是ト密接不可分ノ關係ニアリマス
金融界ニ及ボス影響ハ廣汎且ツ深刻ニ
瓦ラザルヲ得ナインノデアリマシテ、其
ノ結果ハ先づ第一ニ戰時補償金、戰爭
保險金等ノ交付ノ對象タル企業ニ對
シ、直接ニ數百億圓ヲ以テ數ヘル損失
ヲ生ゼシメ、是ハ又必然的ニ金融機關
ニ波及致スノデアリマス、此ノ金融機
關ノ蒙ムルベキ損失ハ、其ノ額ニ於
テモ、割合ニ於テモ、場合ニ依リマシ
テハ、金融機關ノ基礎ヲ直接脅威スル
ニ至ルモノト豫想セラレルノデアリマ
シテ、之ヲ其ノ儘放置致シマスルナラ
バ、不知不識ノ間ニ信用機構ノ根柢ヲ
動搖セシメマシテ、國民ノ財蓄心ヲ消
磨シ、生產ノ澁滞ヲ招來致シマスノミ
ナラズ、萬一ニモ不測ノ事態ヲ發生致
シマスル時ニハ、國民生活ノ不安ヲ増
大シ、產業復興ノ端緒ヲモ崩廢セシ
メ、延イテハ社會秩序ノ維持ニモ萬全
ヲ期シ得ナイコトニナラストモ限ラナイ
ノデアリマス、曩ニ施行致シマシタ金
融緊急措置令施行規則ノ改正並ニ金融
機關經理應急措置法ハ、此ノ戰時補償
等ノ特別處理ニ伴フ金融界ノ混亂ヲ未
然ニ防止シ、爾後ノ經濟再建施策ノ遂
行ニ支障ナカラシムル爲ノ、差當リ必要

トスル應急ノ措置アリマシタ、而シテ
金融機關ニ於キマシテハ、此ノ軍需補
償等ノ特別處理ヲ轉機ト致シマシテ其
ノ再建ヲ圖リ、將來ノ健全ナル發展ノ
基礎ヲ築ク爲メ、先づ其ノ整理ニ徹底
的對策ヲ講ズベキデアリマス、即チ金
融機關ト致シマシテハ、此ノ際先ツ其
ノ生ズベキ損失ヲ迅速的確ニ處理致シ
マシテ、金融機關自體ノ整理並ニ整備
ヲ促進シ、速カニ實ナル資産内容ヲ
有スル金融機關トシテ再出發シナケレ
バナリマセヌ、此ノ場合株主ハ勿論、
預金者、保險契約者、社債權者其ノ他
ノ債權者ニ於キマシテモ、整理進捗ノ
狀況ニ依リマシテ、ソレハノ負擔力
ニ應ジ其ノ損失ヲ負擔致スベキコトハ
經濟再建ノ國家的要請ノ前ニ、事情沟
ニ已ムヲ得ナイ次第ト存ジマス、併シ
ナガラ何分ニモ其ノ損失ノ性質ハ特殊
事情ノ下ニ於テ、戰時補償等ノ特別處理
ニ伴ヒ生ズル特別ノ損失デアリマシテ、
其ノ損失負擔ノ額、關係者ノ範圍、其
ノ利害關係等ノ廣汎且ツ錯雜セル點ニ
鑑ミマシテ、具體的ニ損失負擔ノ割合、
順序方法等ヲ定メ、整理實施ノ公正、
迅速、確實ヲ期スルコトガ特ニ必要デ
アルト考ヘマス、又此ノ際金融機關ノ
預金等ノ中、國民生活ノ安定ヲ保持ス
ル爲メ、最低限度ノ必要ナモノニ付キ
マシテハ、其ノ支拂ヲ確保致シマスル
爲メ、國家トシマシテモ金融機關ニ對
スル補償ノ措置ヲ講ズル必要ガアルノ
デアリマス、尙ホ金融機關ノ速カナル
立直シノ爲ニハ、其ノ整理進捗ノ狀況
トモ睨ミ合セ、或ハ整理完了後ノ諸般
ノ情勢ニ依リマシテ、金融機關ノ合併、
増資、事業ノ譲り渡シ等ノ措置ヲ講ジ、
其ノ速カナ再建整備ヲ促進スル必要モ
アルノデアリマス

以上申述述べマシタ理由ニ依リマス
テ、金融機關再建整備法案ヲ提出致シ
タ次第デアリマス

以下本法案ニ付テ主ナル點ヲ簡單ニ
申上ダマス、第一ニ金融機關ニハ業ニ
金融機關ノ經理上ノ懸急措置トシテ、
指定時即チ八月十一日ヲ以テ新勘定五
ビ舊勘定ヲ設ケラレ、資産及び負債、
ソレハ舊勘定及ビ新勘定ニ屬セシマ
ラレテ居ルノデアリマスガ、金融機關具
ハ先づ此ノ指定時ニ於ケル資産及び負
債ノ狀況ヲ調査確定致シ、爾後ノ整理並
ノ基礎ト致シマスルト共ニ、一定ノ基準竝
ニ依ツテ之ヲ評價致スノデアリマス、
此ノ評價基準ハ、暫定評價基準竝ニ
定評價基準ノ二ツ致シマシテ、先づ斯ル
定評價基準ニ依ル評價ヲ行ノンデアリマス、
マス、サウシテ其處デ整理ニ一段落、
劃シマシテ、次イデ逐次確定評價基準
ニ依ル評價ヲ行ヒマシテ、整理ヲ完ズ
スル方針アリマスガ、此ノ評價基準
ハ金融機關ニ生ズベキ損失額ノ決定、
將來ニ於ケル金融機關ノ整備、延イキテ
ハ戦後經濟ノ再建等ニ關シ影響スル所
ガ極メテ多大ナルモノガアリマス、
其ノ決定ニ際シ、物價ノ趨勢其ノ他ニ
經濟條件トモ睨ミ合セテ慎重ナル態勢
ヲ以テ臨ム必要ガアリマスノデ、主務
大臣ハ經濟再建整理委員會ノ議ヲ經ニ
之ヲ決定スルコトト相成ツテ居リマス
次ニ舊勘定ノ資產及び負債ノ評價ヲコト
逐次確定シテ參リマシタ結果、金融機
關ノ資產ノ内容ガ概モ良好ナリトノ事
透シガ付イタ場合ニ於キマシテハ、往々
ラニ整理ノ完了ヲ待ツコトナク、負債
ノ狀況トモ睨ミ合セ、隨時資產及ビ負
債等ヲ新勘定又ハ新金融機關ニ移ス
トガ出來ルヤウニ致シマシタ、サウシテ
テ預金者等ノ便益ニ資シ、且ツハ新設

他ノ整理債務ノ金額ノ七割ニ相當スル額マデ、整理債務ノ債權者ニ於テ負擔ヲ致シマス、更ニ尙ホ損失ニ殘額ガアリマストキハ、其ノ殘額ヲ株主等ニ於テ負擔シ、更ニ其ノ殘額ハ整理債務ノ債權者等ニ於テ負擔スルモノデアリマス

以上ノヤウナ順序ニ依リマシテ負擔額ヲ計算致シマシタ結果、資本ノ減少ヲ必要トスル場合ニ於キマシテハ、ソシテ資本ニ未拂込金ガアリマストキハ、未拂込金ヲ徵收シ、資本ノ減少ヲ致スコト致シマンタ、尙ホ是ト同時ニ舊勘定ノ債權モ負擔額ニ相當スル金額ダケ消滅シ、新勘定及ビ舊勘定ノ區分ノ消滅ニ際シテ、舊勘定ハ充實セル資産内容ヲ以テ新勘定ノ營業ト合一スルコトナルノデアリマス、尙ホ株主ガ資本ノ全額ヲ以テ舊勘定ノ損失ヲ負擔スペキトキハ、所謂第一銀行等ヲ設立シ、新勘定ノ事業ヲ之ニ譲渡スル等ノ方法ニ依リマシテ、解散スルコト致シタノデアリマスガ、此ノ場合前ニ申述べマシタ順序ニ依リ損失ヲ負擔シテ未だ損失ニ残額ガアル時ニハ初メテ政府ニ於テ、之ヲ補償スルルコト致シタノデアリマス、此ノ殘額ハ實質的ニ新舊勘定分離ニ際シ、優先的ニ新勘定ニ屬スルコトナリマシタ預金等ノ債務ヲ擔保スルモノデアリマシテ、之ニ依リ少額預金者等ヲ保護シ、國民生活ノ安定ト金融機關ニ對スル信用ノ維持ヲ圖シタモノデアリマス

次ニ金融機關ハ舊勘定ノ整理手續中ニ於キマシテモ新勘定ノ資產ノ確定評價ノ付キ次第第二銀行等ノ設立ニ依機關ニ對シテ、新勘定ノ事業ヲ譲渡シ得ルコト致シマシタ、又主務大臣ハ

金融機關ノ合併、資本ノ増加、事業ノ
讓渡等ニ關シ、經濟再建委員會ノ議ヲ
經テ之ヲ命ジ得ルコトシテ、整備ノ
促進ヲ圖ル次第アリマス

尙ホ此ノ法律ニ依ル整理ハ、一般會
社等ノ整理ノ特例トナリ、其ノ他新勘
定及ビ舊勘定ノ設定セラレル等ノコト
モアリマスルノデ、監査委員會ノ設
置、決算ノ特例、資本減少手續ノ特例
等所要ノ措置ヲ定メマシタ外、舊勘定
ノ整理實施ニ伴フ各般ノ民事手續上ノ
特例、資產評價上ノ特例等ニ關シ若干
ノ規定ヲ設ケ、其ノ他保險契約、所謂
閉鎖金融機關、金融債券等ニ關シ所要
ノ規定ヲ設ケタ次第アリマス

以上ヲ以チマシテ金融機關再建整備
法案提案ノ理由並ニ主ナル内容ノ説明
ヲ終リマス

先づ第一二、金融機關が先頭勘定サ
リマシテ金融機關經理應急指置法ニ依
シマシタ時ニ於テ、大藏省預金部ノ資
金並ニ簡易生命保険及ビ郵便年金特別
會計ノ積立金ニ依ツテ運用サレテ居リ
マシタ資產モ、金融機關ノ資產ノ評價
ニ准ジテ評價シテ其ノ損失額ヲ確定致
シマス、以上ニ依ツテ確定シマシタ損
失ハ、評價益積立金ノ順序ニ依リ填補
致シマシテ、尙ホ殘存スル損失額ニ付
キマシテハ、國民生活ノ安定ト郵便貯
金、簡易生命保険金及ビ郵便年金ノ特
異性等ヲ考慮致シマシテ、適正ナル基
準ニ依リ一般會計カラ補償金ヲ受入レ
テ之ヲ填補スルコトトシ、更ニ損失額
ガ殘存スル場合ニ於テ初メテ其ノ一部
ヲ是等ノ債權者ノ負擔トスルコトニ致
シタノデアリマス

次ニ以上ノ整理ヲ行フ爲メ、積立金
ノ使用方法ヲ制限シ、又郵便貯金等ノ
預金部預金ノ支拂ヲ確保スル爲メ、大
藏省預金部が借入金ヲナシ得ル途ヲ開
クコトト致シタノデアリマス、尙ホ簡
易生命保険及ビ郵便年金ニ付テモ以上
ニ準ジタ整理方法ヲ行ノコトシタノ
デアリマス

以上戦時補償特別措置法案外二件ニ
付キ甚ダ盡シマセガ御説明申上ゲタ
次第アリマス、是等三法案ハ事柄ノ
性質上何レモ特ニ急速ナル實施ヲ必要
トルモノデアリマスカラ、何卒特別
ノ御配慮ヲ以テ速カニ御審議アランコ
トヲ切望致ス次第アリマス

○本多委員長 司法大臣

○木村國務大臣 私カラ特別和議法案
ニ付テ提案理由ヲ御説明致シタイト思
ヒマス、今回ノ戦時補償ニ關スル特別
措置ニ關聯シテ金融機關及ビ金融機關ノ

被ル損害ニ付キマシテハ、別ニ提案ノ
金融機關再建整備法案及ビ企業再建整
備法案等ニ依リ必要ナ對策ヲ講ゼント
スルモノデアリマスガ、今回ノ措置ノ
單ニ是等ノ事業體ノミナラズ、直接間
接ニ廣ク一般國民ニ影響ヲ及ボシマシ
テ、之ニ關聯シテ經濟上多大ノ損失ヲ
受ケル多數ノ債權者ガ生ズルコトハ
必然ノ理デアリマス、之ヲ放置シ
テ多數ノ破産者ヲ出スガ如キハ國民經濟
ノ圓滑ニ運行ヲ圖ル所以デハナク、
且ツ是等ノ損失ハ敗戦ノ結果トシテ關係
者間ニ於テ廣ク之ヲ分擔スベキデアリ
リ、單ニ直接ノ損失者ノミ其ノ犠牲
強要スル如キハ、社會正義ノ上カラモ
是認シ難イ所デアリマス、隨テ是等ノ
損失ヲ債權者及び債務者間ニ衡平ニ分
擔サセ、個人生活ノ安定ト健全ナ法人
事業ノ維持ヲ圖ル爲メ此ノ法律案ヲ提
出シタ次第デアリマス、此ノ法律案ニ
於テハ、右ノ目的ヲ達成スル爲メ、從
來ノ和議制度ニ準ジマシテ、且ツ右ニ
述べマシタヤウナ債務者ノ爲メ和議ノ
成立ヲ容易ニスルヤウナ各種ノ特例ヲ
設ケタ特別和議制度ヲ設ケマシテ、極
力破産ヲ防止スルコト致シマシタ、極
其ノ概要ハ概不次ノ七點ニ歸著致シ
マス

ノ緩和デアリマス、即チ上述ノ債務者ニ對スル債權ニハ其ノ額、成立ノ時期、場合ヲ生ジマスノデ、斯様ナ場合ニハ、
ガアリ、之ヲ機械的ニ一率平等ニ取扱フ時ハ、却テ正義ニ合致シナイヤウナ
場合ノ害シナイ限り、和議條件ニ於テ
衡平ヲ害シナ差等ヲ設ケルコトヲ許シタ
債權者間ニ差等ヲ設ケルコトヲ許シタ
次第デアリマス

第三點ハ裁判所ニ和議條件ノ變更權ヲ認メタコトデアリマス、和議條件ハ債務者カラ提供スルノデアリマスガ、其ノ内容ガ適當デナイ時ニ、之ニ若干ノ修正ヲ加ヘルコトニ依リ、之ヲ適正ナルモノトシ、和議ノ成立ヲ容易ニスルコトガ出來ルヤウナ場合ニハ、裁判所ニ斯様ナ修正ヲスル權限ヲ與ヘヤウトスルモノデアリマス

第四點ハ債權者集會ノ決議ヲ容易ニシタコトデアリマス、即チ和議ヲ可決スル場合ニ關シマシテ、定足數ノ規定ヲ若干緩和シ、且ツ書面ニ依ツテ同意ヲ表スル途ヲ開イタ次第デアリマス

第五點ハ債權者集會ニ於テ和議ノ可決ヲ得フレナカツカ場合ニモ、尙ホ和議ヲ成立サセル途ヲ開イタコトデアリマス、即チ裁判所ガ和議條件ヲ衡平デ、且ツ和議債權者ノ一般ノ利益ニ合致スルト認メタ時ハ、債權者集會ガ成立シナカツタ場合、成立シテモ決議セズ、若シクハ和議ヲ否決シタ場合、又ハ和議ノ手續若シクハ決議ガ法律ノ規定ニ反シタヤウナ場合デモ、和議ヲ認可スルコトガ出來ルモノトシタノデアリマス

第六點ハ和議デ定メタ讓歩ノ取消及ビ和議ノ取消ヲ止メタコトデアリマス、現行制度ニ依リマスルト、債務者

ガ和議ノ履行ヲ怠ツタ場合ニハ、讓歩ノ取消又ハ和議ノ取消ニ依リマシテ、債權者ノ債權額ガ舊ニ復スルコトトシアルノデアリマスガ、今回ノ和議ニテアルマシテ、終戦後ノ新タナ事情ニ應ジテ、舊債權債務ヲ調整シタ次第アリマシテ、假令債務者ニ不履行ガアトハ不適當ト考ヘマスノデ、讓歩ノ取消又ハ和議ノ取消ヲ認メナイコトニ致シタ次第アリマス

第七點ハ和議債權者ノ爲メ一定ノ範圍内デ、強制執行及ビ破産申立ヲナシ得ル途ヲ開イタコトデアリマス、現行制度ノ下ニ於キマシナハ、和議ニ參加シタコトダケデハ、債權者ハ債務者ニ對シ將來強制執行ヲスルコトハ出來ナリノデアリマスガ、此ノ法案デ、債權者ガ債權者集會デ異議ヲ述べナカツタ債務權ニ付テハ、將來強制執行ヲナシ得ルコト致シマシタ、又現行制度ノ下ノデハ、和議債權者ハ債務者ニ對シ破産ノ申立ヲナスコトガ出來ナリコトニナシテ居ルノデアリマスガ、此ノ法案デハ債務者ガ和議條件ノ履行ヲ怠ツタ場合、債權者ハ破産ノ申立ヲスルコトガ出來ルモノトシタノデアリマス

以上ガ本法案ノ要點アリマス、何卒御審議ヲ御願ヒ致シマス

○本多委員長 次ニ商工大臣

○星島國務大臣 私ヨリ企業再建整備法案ニ付キマシテ、提案理由ヲ御説明申上ゲタイト思ヒマス、政府ハ曩ニ御協賛ヲ得テ、企業經理懸急措置法ヲ制定致シ、本法施行マデノ準備ヲ致シタガ、國法ノ適用ヲ受ケル特別經理會社ノ本格的ナ再建整備ヲ行ハンガ爲テアルノデアリマスガ、今回ノ和議ニテノ取消又ハ和議ノ取消ニ依リマシテ、債權者ノ債權額ガ舊ニ復スルコトトシアルノデアリマスガ、今回ノ和議ニテアルマシテ、終戦後ノ新タナ事情ニ應ジテ、舊債權債務ヲ調整シタ次第アリマシテ、假令債務者ニ不履行ガアトハ不適當ト考ヘマスノデ、讓歩ノ取消又ハ和議ノ取消ヲ認メナイコトニ致シタ次第アリマス

企業ハ補償打切措置ノ影響ヲ直接ニ
蒙ルノデアリマスガ、本法ハ此ノ企業
ノ損失ヲ適正ニ處理致スト共ニ、所謂
擬制資本ノ切捨ヲ斷行シ、現實ニ有效
ナ資産内容ト釣合ヒノ取レタ資本ノ下
ニ健全ナ經營形態ヲ有セシメテ、先
づ經營部面カラスル產業再建ヘノ基礎
ヲ確立セントスルモノデアリマス、即
チ本法ノ目的ト致シマスノハ、第一條
ニ掲ゲテ居リマスヤウニ、補償打切等
ニ依リ企業ノ蒙リマシタ損失ヲ適正ニ
處理シ、其ノ速力ナ再建整備ヲ促進シ、
以テ產業ノ健全ナ回復及ビ振興ヲ圖ル
所ニアリマス

マス、茲ニ特別損失ト申シマスノハ、
戦時補償特別税ノ課税、在外資産ノ喪
失、第二封鎖預金、其ノ他ノ債權ノ回
收不能、其ノ他終戦ニ伴ヒ不要遊休ト
ナツタ設施資材ノ値下リ等ニ依ル損失
等、終戦又ハ今回ノ諸指置ニ伴フ特殊
ノ損失ハ勿論、帳簿上デハ一應資産ト
シテ計上サレテ居リマシテ、繰延經理
額等實質ノ伴ハナイ資産、並ニ從來ノ
經營損等ヲモ含メマシテ、苟クモ企業
ニ取ツテ損金デアルベキモノノ一切ノ
額ト、利益トシテ觀念サレベキ一切ノ
額トヲ控除シタ差額ヲ言ウテ居ルノデ
アリマシテ、斯カル特別損失ニ付キマ
シテ、商法ノ一般原則ト異ナリ、全面
的ナ債權者優先ヲ認メズ、以上ノヤウ
ナ特別負擔原則ヲ法定致シタノハ、要
スルニ今回ノ計算ニ於ケル損失ノ大部
分ガ、終戦ト云フ特殊ノ原因ニ基ク損
失デアリナガラ、斯カル特殊ノ損失
ハ、之ヲ企業ノミニ負擔セシムベキデ
ハナイト云フコトニ基クモノニアリマ
ス、又之ヲ國家的見地カラ考ヘテ見マ
シテモ、徒ラニ商法ノ一般原則ヲ固執
シテ、企業ヲ再起不能ニ陥ラシメルコ
トハ、戦後產業ノ再建ノ爲メ策ヲ得タ
モノデハナク、茲ニ株主及ビ債權者ニ
對シ特殊ノ負擔方法ヲ定メテ、其ノ間
ノ衡平ヲ期シタ次第アリマス、尙ホ
其ノ際必要ナ場合ニハ、資産ニ付テ適
正ナ再評價ヲ認メルコトトナルト思ヒ
マスガ、ドノ程度ノ再評價ヲ認メルカ
ハ、慎重ニ決定致シタイト思フノデア
リマス

ヲ立案シナケレバナリマセ、即ち會社ノ存續解散ノ別、合併、第二會社設立ノ有無、事業計畫、資金計畫等ノ詳細ヲ記載致シマシテ整備計畫ヲ主務大臣ニ提出シ、其ノ認可ヲ受ケナケレバ、ナラナイコトトナツテ居リマスガ、斯様ナ企業再建ノ整備計畫ノ立案ハ、企業ト其ノ債權者トノ緊密ナ協力、理解ノ下ニノミ可能アルト考ヘタカラデアリマシテ、當該會社ノ理事者及ビ債權者ノ代表カラ成ル特別管理人ガ、甚ノ責任ヲ負ウテ之ヲ立案スルヨト相成ツテ居ルノデアリマス、整備計畫ノ立案ニ當ツチハ、會社ノ設備、資產等ノ稼働狀況、製品轉換ノ能力、原材料ノ獲得及び製品販賣ニ付テノ豫想、資金、勞務等ニ關スル計畫、更ニ是等ノ諸點ニ關スル將來ノ見透シ等ニ基イテ、慎重且ツ堅實ニ設定サルベキモノデアルコトハ申スマデモゴザイマセヌガ、更ニ其ノ適正期スル爲ニハ利害關係人ノ異議ノ申出モ認メタ上、主務大臣ハ斯カル異議ノ申出ヲモ參酌シツツ、慎重三検討ヲ加ヘ、經濟再建整備委員會ノ諮問ヲ經テ、之ニ對スル認可、修正認可又ハ不認可ノ處分ヲ決定スルコト相成ル譯ニアリマス

リマスノデ、之ヲ整備計畫ニ記載スル
コトニ依ツテ、第二會社モ亦舊會社カ
ラ債務ヲ承繼シ得ルコトガ出來ルコト
トセラテ居リマス、其ノ他或ハ未拂
込株金ノ徵收デアリマストカ、議決權
ノナイ株式ノ發行、議決權ノ制限、處
分益ノ制限、資本ノ減少等ニ付テモ亦
總テ整備計畫ニ集約シテ記載セラレル
コトニ相成ツテ居リマス
斯クシテ整備計畫ハ、今後、當該會
社再後ノ爲ノ憲章トモ言フベキモノデ
アリマシテ、之ニ付キ主務大臣ノ認可
ヲ得マシタナラバ、會社ハ之ヲ忠實ニ
且ツ迅速ニ實行シ、自ラノ再整備ヲ
圖ルト共ニ日本產業ノ再生復興ノ一
翼トナラネバナラヌノデアリマ
ス、隨ヒマシテ整備計畫ノ實行
ニ當リマシテハ、其ノ迅速簡易化ヲ確
保致シマス爲ニ、事業開始、資產ノ處
分等ニ付キマシテ他ノ法令ノ適用ヲ排
除シ既存ノ契約、定款ノ定等ノ拘束ヲ
モ脱シ得ルコト致シ居リマスシ、
又株主總會等ノ議ヲモ要シナイモノト
スル等、法令其ノ他ノ手續ニ對シ簡易
迅速ナ便法ヲ認ムルコト致シタノデ
アリマス、ソレノミナラズ整備計畫ノ
迅速確實ナ實行ハ、產業ノ急速ナル回
復ノ見地カラ、國家トシテモ無關心タ
リ得ナイ重要ナ問題テアリマスノデ、
整備計畫ガ實行ノ豫定期ヲ定メシメ
チ、之ニ依リ計畫ノ迅速確實ナ實行ヲ
要求シ、主務大臣ハ適宜所要ノ指導監
督ニ任ズル方針デアリマス
斯クテ本法ノ運用ニ當ツテハ、整備
計畫ノ認可カラ始マツテ其ノ實行ノ適
正確保ニ至ルマデ、企業ニ對スル主務
大臣ノ強力ナ監督指導が定メラレテ居
リマスノデ、ソノ圓滑ナ運營ヲ圖ル爲
ニ各方面ノ技能學識アリ練達有能ノ士

○以て、官民一體ノ經濟再建整備委員會ヲ組織シ、重要事項ハ之ニ諮問シツ處理スルコトナツテ居リマス
以上ガ本案ノ骨子ニアリマスガ、既謂擬定資本ノ切捨ニ依ツテ戰爭ニタク企業ノ過大ナ負擔ヲ除去シ、現實有效ナ設備資産ノ上ニ堅實ナ經營内面ノ要求ナアリマシテ、是ガ爲ニ以テ企業ヲ再出發セシタルコトニサヌチ、一刻モ早ク產業全體ノ復興、且生ノ安定ヲ圖リマスコトガ、我ガ國學業ノ要求ナアリマシテ、是ベマシタヤウナ本法ノ措置ガ其事共必要ト考ヘラレルノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上御賛同賜ハランコ、ヲ御願ヒスル次第アリマス
○本多委員長 貿部政府委員
○貿部政府委員 大臣ニ代ツテ御説明ヲ申上げマス、厚生年金保險法並ニ勞働保險法ノ臨時措置ニ對スル法律案御説明ヲ致シマス、今回軍需補償ノ打切り等ニ隨伴致シマシテ、離職スル者ハ相當ノ數ニ上ルモノト豫想サレマノデ、是等ノモノニ對スル脱落手當當支給ニ當リマス、何卒速力ニ御審議ノ上御可決アリマス、何卒速力ニ御可決アリマス
○本多委員長 以上ヲ以テ現在付託シテ、即時支給シ得ルコト致シマシテ、マス、何卒速力ニ御可決アリマスガ、大日本會議ニ於テ財稅法案其ノ他を除キ、スル政府ノ一應ノ説明ヲ全部聽取致シテ、委員會ニ併託セラレル豫定ニナツテ、タイト思ツテ居ルノデゴザイマス、リマハノデ、本日ハ特ニ本會議散會後本委員會ヲ開いてソレ等ノ法案ニ對スル政府ノ一應ノ説明ヲ全部聽取致シテ、委員會ニ併託セラレル豫定ニナツテ、タイト思ツテ居ルノデゴザイマス、リマハノデ、本日ハ特ニ本會議散會後本委員會ヲ開いてソレ等ノ法案ニ對

ト言フテ、此ノ歳入缺陥ヲ純然タル赤字公債ヲ發行シテ補填致シマスコトモ亦、財政經濟上ニ甚大危險ナ結果ヲ生ズル次第アリマス、仍リマシテ其ノ財源ヲ國民ノ財產ヲ稅源トスル財產稅ニ求メントスル次第デアリマス、勿論財產稅ヲ以テ財政支出ヲ賄ヒトハ申セマセヌ、此ノ事ハ豫テ私カラ申上ゲテ居ルヤウナ次第デアリマス、政府ト致シマシテハ、此ノコトニ深ク思ヒ、致シマシテ、本年度ノ財政ヲ施行致スニ付キマシテモ、其ノ支出ニ對シマシテハ、其ノ支出ノ效果ヲ十分ニ檢討ヲ致シマシテ極力ソレガ「インフレ」ヲ發生スルガ如キコトガナ財稅ハ勿論純然タル赤字公債ヲ發行致シ、ソレヨ日本銀行ニ持タセテ使ヒマスノトハ趣キヨ甚ダ異ニスルノデアリマシテ、兎ニモ角ニモ國民カラソレダケノ財產ノ徵稅ヲ致スノデアリマスカラ、所得稅ヲ取ツテ參ル程ノ效果ハナイニ致シマシテモ、ヤハリ直接間接ニ納稅者ノ消費ヲ抑制スルト云フ效果ガアルコトハ明瞭デアリマス、隨テ財產稅ヲ以テ本年度ノ財政支出ノ一部ノ財源ト致シマシタ理由ガソコニアルノデ又是ガ相當ノ效果ヲ持ツト信ジテ居ル次第デアリマス、財產稅法案ヲ立案致シマシタ經緯ニ付キマシテハ本會議ニル方法トシテハ斯ク致ス外ナカツタ、又はガ相當ノ效果ヲ持ツト信ジテ居ル於テ申上ゲマシタガ、御承知ノヤウニ前内閣當時法人戰時利得稅、及び個人

其ノ二ハ、調査時期ニ於キマシテ此ノ法律ノ施行地ニ財産ヲ有シテ居タ個人、其ノ三ハ、右ノ外戸籍法ノ適用ヲ受ケル個人デ調査時期後二年以内ニ此ノ法律ノ施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スルコトトナツタモノ、此ノ三者デアリマス、尙ホ一定ノ外國人ニ對シマシテハ財產稅ハ之ヲ取ラナイト云フコトニナツテ居リマス
以上ノ戸籍法ノ適用ヲ受ケル個人デ調査時期ニ於テ此ノ法律ノ施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有シテ居タ者及ビ調査時期後二年以内ニ此ノ法律ノ施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スルコトトナツモニ付テハ、其ノ調査時期ニ於ケル財產ノ全部ニ對シ課稅ヲ致スノデアリマシテ、ソレ以外ノ個人ニ付キマシテハ調査時期ニ於テ此ノ法律ノ施行地ニ有シテ居タ他之ニ準ズル財產等ニ付キマシテハ、其ノ性質上非課稅トシテ居ルノデアリマス
次ニ非課稅財產ニ付キマシテハ、生活ニ通常必要ナ家具、什器、衣服其ノ全部ニ對シ課稅サレルモノニ付キマシテハ、調査時期ニ於ケル財產ノ全部ニ付キマシテ、調査時期ニ於ケル財產ノ價額カラ、調査時期ニ於ケル債務ノ全額ヲ控除シタ額ヲ以テ課稅價格ト致シマシタ、調査時期ニ於テ此ノ法律施行地ニ現ニ存シモタノノ金額ヲ控除シタ額ヲ以テ課稅價格ト致スノデアリマス、此ノ場合、昭和二十一年度分ノ賦課稅

ニ依ル所得税及ビ課税率ニ依リ國民生活ニ脅威マシテ、又戰時補償特別税等モ之ヲ調査時期ニ於ケル債務ト看做スコト致シテ居マス、又昭和二十年十一月十五日以後調査時期ニ於ケル債務ト看做シマス、又戰時補償特別税等モ之ヲ調査時期ニ於キマシテハ、其ノ贈與財産等ハ贈與者等ノ財產ト看做シ、贈與者等ニ納稅義務ガアルモノトシ、贈與ヲ受ケタ者等ハ贈與者等ノ納稅義務ニ付テ連帶納稅ノ責ニ任ジマスト共ニ、贈與者等ハ贈與財產等ニ對シ財產税ヲ納付シタ場合ニハ受贈者等ニ對シ其ノ納付シタ稅額ニ付キ請求シ得ルコト致シテ居リマス、以上ノ課稅價格カラ戰災者及ビ引揚者ニ付キマシテハ一人五千圓ヲ控除致シマス、又戰爭及ビ災害ニ基因スル死亡、傷害等ニ付キ支給ヲ受ケタ一時金等ニ給付金額ヲ課稅價格カラ控除スル等ノマスク、又シテ是等ノ控除ハ申告期限内ニ申告書ヲ提出シタ場合ニ限り之ヲ行フコトナツテ居リマス

圓以下ノ金額ニ付キ、百分ニ十五、ソレカラ最高千五百萬圓ヲ超エル金額ニ付キマシテハ百分ノ九十二至ル累進稅率ヲ設ケルコト致シマシタ、此ノ結果本稅ニ依ル租稅負擔ハ、特ニ多額ノ財產ヲ有スル者ニ付キマシテハ相當嚴シイノデアリマスガ、本稅ノ趣旨ニ鑑ミ、眞ニヨリムヲ得ナイモノト存ズル次第デアリマス

尙ホ戸主及ビ同居家族ノ課稅價格ハ、之ヲ合算致シマシテ、其ノ總額ニ付キ免稅點及び稅率ノ規定ヲ適用致ス考ヘデアリマス

次ニ財產ノ評價ニ付キマシテハ、原則トシテ新物價體系ニ依ル價格ヲ基準ト致シテ、可及的適正ナ評價ヲ致シタ伊ト存ジテ居リマス、即チ土地又ハ家屋ニ付キマシテハ、取引價格ヲ基準ト致シマシテ、賃貸價格ニ一定ノ倍數ヲ乗ジテ算出シタ金額ニ依ルコト致シマス、又公債ハ原則トシテ其ノ發行價格ニ依リマスト共ニ、株式、出資、社債等ノ價格ニ付キマシテハ、戰時補償特別稅納稅後ノ實情ニ即應致シマシテ、政府ニ於テ適正ナ評價ヲ致スノデアリマス、此ノ場合不動產ノ評價ニ付キマシテハ不動產評價委員會ヲ、又株式等ノ評價ニ付キマシテハ株式等評價委員會ヲ設置致シマシテ、廣ク一般ノ意見ヲ參酌シテ、其ノ評價ノ適正ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、尙ホ兩委員會共其ノ委員ノ人選ニ當リマシテハ、貴衆兩院議員其ノ他、廣ク民間各界ノ權威者ヲ御願ヒ致ス所存デアリマス、尙又保契契約ニ關スル權利ノ價格ハ、拂込濟保險料ノ合計額ニ一定ノ割合ヲ乗ジテ算出シタ額ニ依ルコト致シマシタ、年金其ノ他ノ定期金ノ權利ノ價格ハ八年現價ヲ基準トシテ定メルコト

ト致シテ居リマス、尙余調査時期後物價統制令ニ依ル統制額ヲ定メタ財產ノ價格ハ、其ノ統制額ヲ基準トシテ定メルコトニナツテ居リマス、又計畫骨董等ヲ含メマシタ家庭用動産ノ價格ノ算定ニ付キマシテハ、色々困難ガ伴ヒマスノデ、家庭用動産以外ノ一般財產ノ價格ニ一定割合ヲ乘ジテ算出シタ金額ニ依リ得ルト云ア特別ノ措置ヲ考慮致シテ居リマス

次ニ申告デアリマスガ、財產稅法案ハ廣ク申告納稅ノ制度ヲ採用致シテ居ル次第デアリマス、即チ納稅者ハ申告期限内ニ課稅價格其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタ申告書ヲ政府ニ提出スルコトト致シマシテ、サウシテ其ノ申告書ニハ捺除ニ關スル明細書ヲ添附スルコトシタノデアリマス、尙ホ在外資產等ニ付キマシテハ、其ノ算定ヲナスコトガ出來ルコトトナルマデハ之ヲ除外シテ申告スルコトト致シタノデアリマス

マラレル財産ガアル場合ニハ、當該
產ニ對スル稅額ニ限り舊勘定預金等
納付ガ出來ル措置ヲ講ジテ居リマス
次ニ課稅價格ノ更正又ハ決定デアリマス
マスガ、今回ノ財產稅ニ於キマシタ
ハ、從來ノ政府ニ依ル一方のナ賦課
收ノ方法ニ代ヘマシテ、申告納稅ノ制
度ヲ採用致シマシタ結果、申告ノナ
時、又ハ申告サレタ課稅價格ガ政府
調査ト異ナル時ニ限りマシテ、政府
於テ課稅價格ヲ更正シ又ハ決定シテ、
不足稅額又ハ決定稅額ヲ徵收スルコ
トシタ次第デアリマス

而シテ課稅ノ適正公平ヲ期スル爲
メ、政府ニ於テ課稅價格ノ更正又ハ決
定ヲナス場合ニハ、豫メ財產調查委
會ニ諮詢シテ、其ノ意見ヲ徵スルコ
ト致シテ居リマス、此ノ委員會ハ稅
署毎ニ之ヲ設置致シ、サウシテ其ノエ
員ニハ民間ノ實情ニ通ジタ方々ヲ任
スル所存デアリマス

次ニ納稅義務者ハ、政府ノ課稅價
格ノ更正又ハ決定ニ對シテ異議ガアリ
ス時ハ、審査ノ請求ヲナシ、又審査
決定ニ對シ不服ガアル者ハ訴願シ、
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトガ出来
途ガ開イテアリマス、而シテ審査ノ
定ヲナス際ハ、財產審査委員會ニ諮詢
スルコトニ致シテ居リマス、尙ホ審
稅者ノ異議ガアル財產ヲ政府ニ讓渡
ベキコトヲ命ジ得ルコトト致シテ居
マス

スト共ニ、申告書等ノ書類ヲ一般ノ閲覽ニ供スルコト致シテ居リマス、其ニ二ハ、他人ノ財産税ニ關シテ、政府ニ報告シタ者ニハ、其ノ報告ニ依ツテ追徴出來ルコトナツタ税額ノ中、一定額以下ヲ報償金トシテ交付スルコトガ出來ルコト致シテ居リマス、此ノ制度ニ付キマシテハ、弊害ガ伴ハヌトテ、年一割程度ノ税額ヲ加算スルトガニ、理由ナクシテ期限内ニ申告ヲ致シテアリマス、其ノ三ハ延納其ノ他通常ノ納期限後ニ納税スル場合ニ付キマシテ、年一割程度ノ税額ヲ追徴スルコト致シテ、又虚偽ノ申告ヲナシタ場合ニハ、當程度ノ税額ヲ追徴スルコトト居リマス、尙ホ政府ハ、調査其ノ他ノ書類ノ提出ヲ命ジマスト共ニ、收稅官吏ハ納稅義務者等ニ質問シ、又ハ其ノ財產、若シクハ財產ニ關スル帳簿書類等ヲ検查スルコトガ出來ルコトトナツテ居リマス

次ニ罰則ニ付キマシテハ、本稅ノ重要性ニ顧ミ、詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依ル通脱等ニ關シマシテ、嚴重ニ之ヲ處罰スルコトニ致シテ居リマス

最後ニ、財產稅ハ皇室ノ財產ニ對シテモ課稅サレルコトニナツテ居リマシテガ、之ニ付キマシテ必要ナ事項ハ、大法案ニ準ジマシテ皇帝令ヲ以テ、之ヲ定メルコトトナツテ居リマス

以上中述ベマシタ所ニ依リマシテ、免稅點ヲ十萬圓トシタ場合ニ財產稅ノ收入額ガ見込額ニ比シ、著シク不足フデアリマスガ、此ノ程度ノ收入ハ、致戦處理費、戰災復興等ノ爲ニ是非共必不可少トル所デアリマシテ、萬一實際ノ收入ハ概々四百三十五億圓トナル見込ルヤウナ場合ニハ、更ニ五萬圓以上十萬圓未滿ノ者ニ付セモ改メテ財產稅ヨ

課スル必要ガ生ズル場合モアラウカト
存ジテ居ル次第アリマス
以上ヲ以チマシテ財産税法案提案ノ
理由、並ニ其ノ主ナル内容ノ説明ヲ終
シテ高率ナ課税ヲ行ヒマスコトハ、前
ニモ申シマシタヤウニ、終戦後ノ國民
ニ對シテハ非常ニ負擔デアリマス、政
府ト致シマシテハ又甚ダ忍ビ難イモノ
ノガアル次第アリマスガ、終戦後ノ
事態ヲ處理シ、急速ニ新日本ノ再建、
國民生活ノ安定ヲ圖ル爲ニハ、眞ニ口
ムヲ得ナイ次第ト考ヘル譯テアリマス
タ所デアリマスガ、目下本院ニ於テ御
審議ヲ願ツテ居リマスル戰時補償特別
措置法案案及ビ財產税法案ニ基キマシ
付キマシテハ、是レ亦本會議案申上ゲ
テ、收納致シマス所ノ財產税及ビ戰時
補償特別稅ハ、何レモ特別ノ收入金デ
アリマス、隨ナニヨ一括シテ其ノ經理ヲ
明瞭ニ致シマスコトガ適當ト考ヘ
ル譯デアリマスノミナラズ、財產税及
ビ戰時補償特別稅ハ何レモ物納ヲ許ス
コトト相成リマスノデ、物納財產ノ收
納ノ状況、及び其ノ處分ノ状況モ一括
シテ經理スルコトガ必要デアリマス、
斯様ナ譯デアリマシテ、特別ノ經理ヲ
致シマスニ付キマシテハ、會計法第三
十九條ノ規定ニ基キマシテ、特別會計
法ヲ制定スル必要ガアリマスノデ、此
ノ法律案ヲ提出致シマシタ次第アリ
マス

テ制定セラレタモノニアリマスガ、戦争ノ終結ニ伴ヒ其ノ存在ヲ不適當トスルニ至リマシタノミデナク、終戦後金融緊急措置令ノ實施、戰時補償ノ打切り及ビソレニ伴フ一連ノ諸措置ノ實施セラレルニ至リマシテハ、全ク其ノ存在理由ヲ失フモノト考ヘラレマスノデ、此ノ際之ヲ廢止スルコト致シタノデアリマス

又臨時資金調整法第十條ノ二ノ規定ハ戰爭保険金支拂ノ債務等、即ち企業整備關係以外ノ金錢債務ノ決済ニ付キマシテ企業整備資金措置法ノ規定ヲ準用致シテ居ルノデアリマスガ、企業整備資金措置法廢止ト同様ニ趣旨ニ依リマシテ、此ノ際同條ヲ削除スルコト致シタノデアリマス

又日本勸業銀行ノ勸業債券ニアリマスガ、此ノ發行限度ハ拂込資本金ノ十五倍ト只今相成ツテ居ルノデアリマスガ、其ノ發行餘力ハ極メテ僅少トナツテ居リマスン、而モ以後ノ日本勸業銀行ノ資金供給ニ支障ナカラシメル必要ガアリマスノデ、此ノ發行限度ヲ擴張致シタインデアリマス、日本勸業銀行法ノ一部ヲ改正シ其ノ限度ヲ現在拂込資本金額ノ「十五倍」ト規定致シテ居リマスノヲ「二十倍」トスルコト致シタノデアリマス

次ニ生命保險中央會ニアリマスガ、是ハ目下ノ狀況ニ鑑ミマシテ、生命保險會社ニ生命保險契約ヲ移轉シ得ルコトトスル必要ガ認メラレマスノデ、生命保險中央會法ノ一部ヲ改正スルコト致シタノデアリマス

以上が財產稅法案外二件ニ付テノ大體ノ内容デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御贊成下サランコトヲ御願ヒ致シマス

○本多委員長 本日ハ此ノ程度ニ於テ
散會致シマス、次會ハ明一日十時ヨリ
第十委員室ニ於テ開會致シマスカラ、
ドウゾ御出席ヲ御願ヒ致シマス
午後五時四十五分散會

昭和二十一年十一月六日印刷

昭和二十一年十一月七日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局